

21世紀土地改良区創造運動

今年度の秋田県奨励賞と
地方大賞への推薦地区が決定！

【平成20年度21創造運動大賞の選考】

6月2日(月)、平成20年度の21創造運動大賞の推薦地区に関する選考が、本年度の秋田県奨励賞、地方選考委員会推薦地区、県知事賞推薦地区、さなえ賞推薦地区について行われた。

選考は、平成19年度に21創造運動に取り組んだ22地区を対象に、①運動の取り組み体制、②運動の意図性、③運動の継続性・発展性、④運動の成果などを選考基準とし、事前に活動を実施した各水土里ネットから、それぞれの地区を採点してもらい、その結果をもとに推進本部長及び事務局での協議により決定された。

「21創造運動大賞」(全国土地改良大会で表彰)の前段となる「地方大賞」の東北ブロックへの推薦水土里ネットとして、ウォーキングを継続開催している**水土里ネット仁井田堰(秋田市)**の推薦を決定した。

また、昨年度に創設された運動を開始して2年以内で、今後の運動の展開が大いに期待できる水土里ネットを表彰する『さなえ賞』(受賞地区数は、原則として都道府県毎に1地区)は、選考の結果、**水土里ネット綴子(北秋田市)**の推薦が決定した。なお、平成20年度の受賞及び推薦地区は次のとおり。

- 秋田県21世紀土地改良区創造運動奨励賞
 - ・ 水土里ネット能代地区(秋田県能代地区土地改良区)
- 東北地方選考委員会推薦地区
 - ・ 水土里ネット仁井田堰(仁井田堰土地改良区)
- 21創造運動さなえ賞推薦地区
 - ・ 水土里ネット綴子(北秋田市綴子土地改良区)
- 秋田県知事賞推薦地区
 - ・ 水土里ネット湯沢中央(湯沢市中央土地改良区)

【水土里レポーターの選任について】

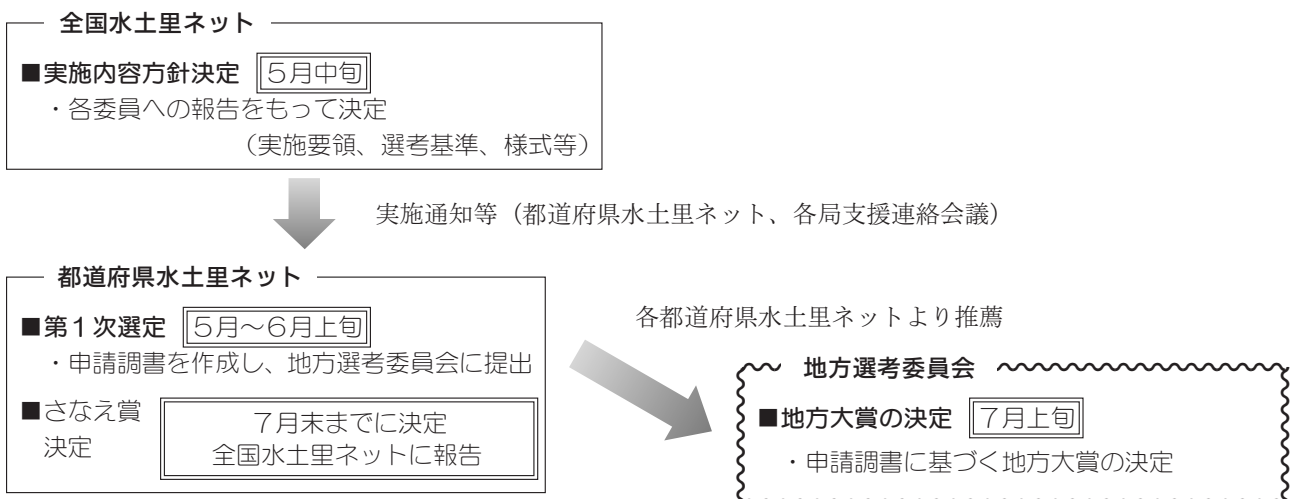
21創造運動や水土里ネットの地域における活動などを情報発信してもらおうと、今年度も地域水土里レポーターを選任(各管内・支部から1名)しました。

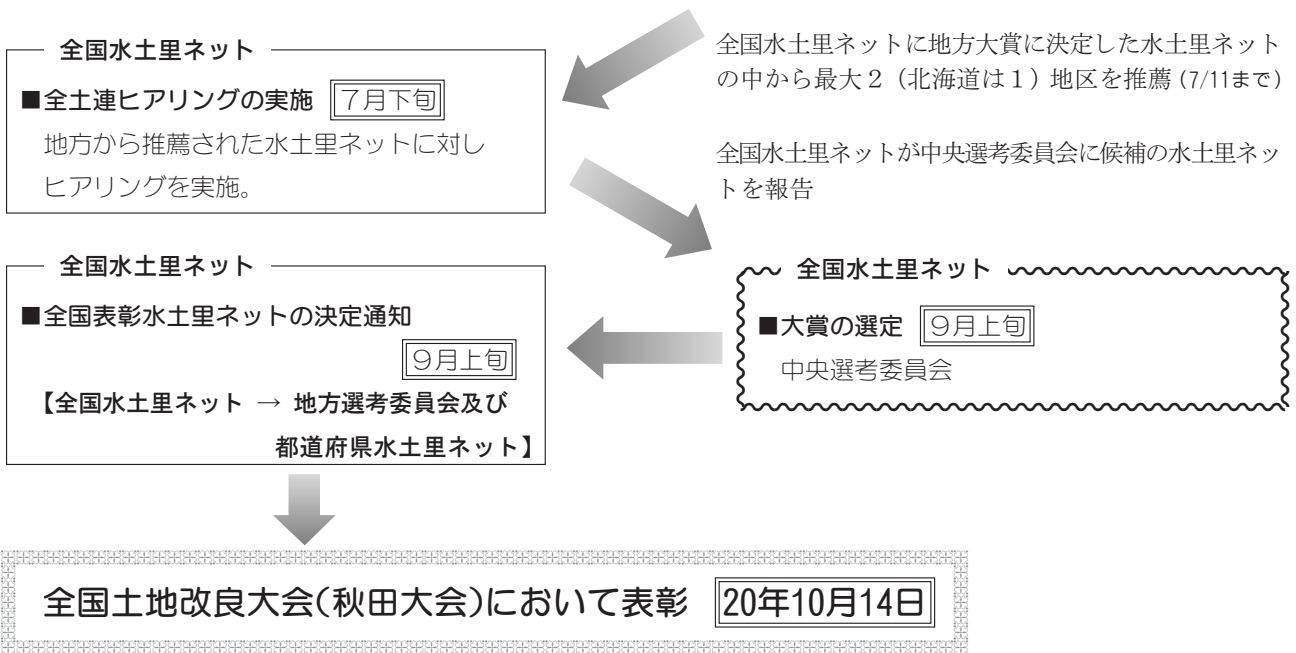
21創造運動の取り組み、農地・水・環境保全向上対策などに関係した地域活動、田んぼの生きもの調査、ホームページの開設など水土里ネットに関する情報、話題などがありましたら、お近くの水土里レポーター又は土地連各支部担当、21創造運動推進本部事務局(総務企画部広報・渉外班 TEL.018-888-2742)まで、お知らせください。

◇平成20年度水土里レポーター

- ・ 原田政子(水土里ネットかづの)、菅原喜博(水土里ネット二井田真中)、畠山篤美(水土里ネット浜口)、伊藤清栄(水土里ネット仁井田堰)、須田久(水土里ネットにかほ)、藤岡義博(水土里ネット七滝)、吉田一則(水土里ネット雄物川筋)、高橋和美(水土里ネット湯沢中央)

【平成20年度21世紀土地改良区創造運動表彰実施の流れ】





水土里ネット 活動報告

■授業で田植え体験

～小学生が「農業の大切さ」を学ぶ～

—水土里ネット綴子—

北秋田市の綴子小学校の5年生29人が5月30日、授業の一環として綴子大太鼓の里保全隊(農地・水・環境保全向上対策活動組織)が主催した農業体験に参加し、田植えを体験した。

保全隊では、綴子小学校と連携を図り、地域の子供たちに農業についての理解と関心をもってもらうため、農業体験を企画し今年で2回目となる。

農業体験は、保全隊の実践活動として実施され、保全隊からは婦人会や自治会、小学校PTA、水土



里ネット綴子など90名が参加した。

実施場所は低コスト化大区画は場整備事業(H3～12年3月)により造成された地域で、地元農

家高橋さんの田んぼの一角。初めに同保全隊の藤島勝政隊長が、「お米が農家の方々の工夫や苦勞に、いかに



に支えられているか体験して学びましょう」と挨拶した後、保全隊(こびりの会)の各指導者から作業説明・見本作業などの後、一齐に田んぼに入って作業が行われた。児童らは強風の中、歓声を上げながら素足で8アールの田んぼに入り、“あきたこまちの苗”を1株5本ずつ植えた。

初めは恐る恐る足を運んでいたが、後半には自在に田んぼの中を移動。中には足を取られて転んでしまう児童も二人ほどいたが、多くの子供が足を取られながらも一生懸命植えている姿に、指導員の高橋さんも「なかなか上手」と褒めていた。

はじめての田植えだった山内優希さん(10)は、「初めて植えたので少し曲がったけど、ちゃんとできて良かった。ぬるぬるした感触にびっくりしたが、一生懸命植えたから秋の収穫が楽しみ」と期待をふくらませていた。同保全隊では昨年に引き続き10月中旬には参加児童と“稲刈り・ハサ掛け”等も行うことにしている。

作業終了後は地域の婦人会が準備してくれた“小昼(こびり)”の由来や、お米ができるまでの過程

を歌詞にして作られた「お米ありがとう音頭」により踊りが披露され子供達も輪に加わっていた。

田植え作業や「こびり」ごはん、婦人会・老人ホームの入居者などの応援を得ながら、昔ながらの農業を体験した児童からは、体験を通して「農業の大切さ」を自分たちの子供にも伝えてい

きたいなどの感想発表や主催者へのお礼の言葉があり、楽しい一日となった。

*こびり(ころばし)：地域では休憩中に食べる“おやつ”で、朝食と昼食又は昼食と夕食の間に食べるご飯「小昼」が訛って「こびり」となっているとされている

■川口小学校三年生による農業体験学習 (ねぎ植え体験)

ー水土里ネット下川沿ー

6月9日、晴天に恵まれ、立花地域農用地保全活動協議が、農地・水・環境保全事業の一環として、大館市立川口小学校三年生、21名が農事組合法人立花ファーム所有の転作田1haを活用して、ねぎの苗植えを体験した。

はじめに同ファームの長崎章夫代表がハウス内でねぎの種が入っているねぎ坊主を使って説明し、ねぎ植え機械による苗作りも見せてくれた。その後ねぎの圃場へ行く途中、農道沿いや堤防沿いには農地・水・環境保全事業で植えたハマナス約400本、木苺約600本を見て、来年は



夏ハゼとラベンダーを植える計画であることや、農地や水を皆で大切に守っていかねばならないことなどをわかりやすく説明してくれた。

その後、児童らはねぎ圃場へ移動し一人5本ずつ手植えを体験しながら、機械によるねぎ植えを見学した。機械植えと自分達とどちらが良く植えられているか比べていました。また、隣接地では大豆の機械植えも見せてくれました。

最後の質問コーナーでは、参加した児童からはどうしてねぎは白くなるのかや、どのような苦労があるかなどについて質問していました。「秋までどのくらい大きくなっているかな」と楽しみにしている様子でした。

今回植え付けたねぎは10月下旬頃子供たちが収穫に来る予定です。



■第6回「水土里のみちウォーキング」 in仁井田walk

ー水土里ネット仁井田堰ー

6月15日(日)、第6回「水土里のみちウォーキング」in仁井田walkが、水土里ネット仁井田堰(仁井田堰土地改良区)と秋田県ウォーキング協会の主催により開催された。

毎年、秋田市の仁井田・四ツ小屋地区の豊かな自然、地域の歴史・文化に触れながら、農村を歩くイベントとしてすっかり定着した感がある。曇天にも関わらず、今回も参加者は300人を超え(14kmコース中学生以下7人を含む126人・6kmコース中学生以下53人を含む200人)、人気の高さが伺えた。

スタート地点であるシルバーエリア(秋田市御所野地区)において開会式を行った後、14kmコー

ス・6kmコースのそれぞれに分かれた参加者は、各自のペースで歩を進めていた。コース途中の

休憩ポイントにおいては、管理者である水土里ネット仁井田堰の職員から「仁井田堰頭首工」の機能・役割についての説明が行われ、また「ヤブレ沼」では、その歴史等の説明が行われた。普段の生活の中で、農業用施設に触れる機会の少ない子供もたくさん参加しており、説明を聞いた子供たちは、農業用施設に興味を抱いている様子であった。

そしてゴール地点では、久々に長い距離を歩いたのか、疲れた表情を隠せずにベンチで休憩



をとるひと、全く疲れを見せずにゴール地点を走り回る元気な子供の姿など、様々な表情が伺えた。しかし、各コースを歩ききった達成感・充実感はゴールした参加者全員が共通して感じていたようだ。

21世紀土地改良区創造運動の活動の一環としてスタートしたこのイベントも第6回を数え、前回に引き続き数多くの参加者を集め、たくさんの思い出を提供することができた。これから

も、着実に回数を重ね、より一層の定着を図るとともに、多くの楽しい思い出を提供できるイベントとして、発展して行ってほしいと願う。



「水土里ネット広報キャラバン」 各支部で開催

— 現地広報活動の実践 —

■最近の事業に対する情報提供を通じた意見交換会

水土里ネット秋田が独自に現地広報活動として取り組む「水土里ネット広報キャラバン」が、各支部を会場に開催され、会員である市町村の担当職員や水土里ネットの役職員から参加していただいた。

キャラバンは、全国土地改良大会秋田大会の準備状況や水土里ネット秋田設立50周年記念式典、水土里情報利活用促進事業、水土里ネットにおけるIT化(通信情報網)に向けた支援、面的集積強化促進事業などについて、最近の事業に対する情報提供を行い、新たな制度、施策についても会員の理解を深めていただくと共に、会員水土里ネットが抱えている問題点、意見及び要望を拝聴しながら、新たな施策の積極的な推進に向けた意見交換の場として、昨年引き続き企画・実施された。

各会場では、水土里ネット秋田の各部長、技術長、次長、事務所長、専門員などがキャラバ



ンの隊員となって、事業のスキームや土地改良区の役割、メリットなどの説明を行った後、質問や要望を受ける形でキャラバンが進められた。

意見・要望等では、各水土里ネットで課題となっている未収金に関する質問や、全国土地改良大会への関わり方などについて、意見や要望が出された。

水土里ネット秋田では、今回の「水土里ネット広報キャラバン」で出された意見・要望を今後の事業展開に反映させると共に、新たな施策に対応した事業推進に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

〔開催状況〕

支 部	開 催 日	参加者(予定)	開 催 場 所
鹿 角	6月27日	(29)	鹿角市山村開発センター
大館・北秋田	6月18日	47	北秋田市交流センター
山 本	7月10日	(76)	能代キャッスルホテル平安閣
秋 田	6月20日	52	イヤタカ
由 利	6月11日	57	ホテルアイリス
仙 北	6月13日	101	グランドパレス川端
平 鹿	6月25日	43	秋田県雄物川筋土地改良区
雄 勝	6月10日	57	湯沢グランドホテル